



県内で活躍中の防犯団体の方々を紹介します。

旭駐在所ふれあい連絡会

今回は、並崎市で御活躍されている「旭駐在所ふれあい連絡会」を御紹介します。

旭駐在所ふれあい連絡会は、平成17年12月に並崎市旭町の有志の方々に結成された自主防犯ボランティア団体で、並崎警察署旭警察官駐在所を中心に活動しています。

構成員は、会長の久保田豊一さん以下11名で、地元の甘利小学校の児童見守り活動を主に活動しています。結成のきっかけは、子供たちの防犯や交通事故防止です。それは、通学に30分以上かかる児童もおり、子供が1人で歩くことが多く、また、その通学路は周りが田畑に囲まれた場所で農閑期には人気もなくなってしまうので、子供たちが安心して帰宅できるようにという思いから、結成に至りました。見守り活動が広範囲にわたることから、平成21年9月には、当時、並崎市では初めて青色回転灯を自家用車に取り付けた防犯パトロールを導入するなど活動の幅を広げています。

また、久保田会長は、非行少年等の立ち直り支援にも力を注ぎ、生業の米作りを通じて非行少年等に手を差し伸べる活動も行っており、この他にも、ものづくり体験や高齢者福祉施設の草取りなどの社会奉仕活動、職業体験活動やサッカーなどのスポーツ活動など、少年との関わりを誰よりも大事にしています。これらの活動により、素直になれなかった少年が、高校に通って単位を取得し、夜遊びをやめてアルバイトをはじめ、将来の夢を語るまでに立ち直った事例もあるそうです。

会長は、「このような事例は稀であるが、無理をせず、向き合っていける少年らと継続的に関わり、成人してからでも何かを感じ取ってくれたら嬉しい。」と話してくれました。見守り活動に同行させていただいたときには、並崎警察署と協働の合同パトロールが実施され、久保田会長など会員を見つけた児童から笑顔で「さようなら」と大きなあいさつがあるなど、旭駐在所ふれあい連絡会の信頼の高さを実感しました。

